



第15回群馬県地域リハビリテーション協議会報告

群馬県地域リハビリテーション協議会・委員長 山口晴保

H26年3月20日に県庁294 会議室で第15回群馬県地域リハビリテーション協議会が開催された。渡辺隆男介護高齢課長から地域包括ケアの中でのリハの役割増強について挨拶をいただいた後に、議事に入った。

まず県支援センターと各広域支援センターの実績概要が報告され、それぞれの支援センターが特色のある取り組みを行っていた。各地域で行われている介護予防イベントに、多くの広域支援センターが参加し、運営に協力し、市町村との連携を深めていた。

本年度末で支援センターの指定期間が終了になるため、来年度から2年間の指定について討議し、現行の指定先を継続することとなった。

介護予防サポーターの育成については、平成25年度だけで初級511名、中級326名、上級325名の介護予防サポーターが誕生した。平成18年度からの8年間では、初級7,669名、中級5,344名、上級2,319名となり（表）、大部分の市町村で介護予防サポーターを活用している。また、既に育成した介護予防サポーターのフォローアップ研修を担当している広域支援センターもあった。平成25年度は16市町村が養成研修を実施し、平成26年度には27市町村が実施を予定している。介護予防サポーターの養成状況については、群馬県地域リハ支援センターのホームページの「特集」から閲覧できるようにした

(<http://www.grsc.biz/topics.html>)。

意見交換では、県から地域包括ケアシステム構築に向けた流れに、各職能団体がどのように対応していくのかが報告された。各団体が、病院から地域への流れに対応しようと努力していることがケアの中に示された。今後は、市町村、とくに地域包括支援センターとの関係をさらに深めて、リハの考え方を広めることが重要である。

このほか、増築計画が進行している群馬県立障害者リハビリテーションセンターの状況報告があった。

来年度の地域リハ関連の予算は、厳しい経済状況の中で、消費増税分のアップとなる。限られた予算内ではあるが、予算を有効活用して、引き続き市町村や地域包括支援センターと連携して介護予防サポーターの育成やフォローアップ研修などに広域支援センターが関わり、地域包括ケアの実現に貢献することが望まれる。

表 これまでの介護予防サポーター養成数 平成25年3月31日現在

	初級	中級	上級（実施市町村）
平成18年度	2,093名	1,172名	66名（4市町村）
平成19年度	1,184名	942名	285名（8市町村）
平成20年度	1,083名	762名	540名（18市町村）
平成21年度	876名	650名	377名（17市町村）
平成22年度	672名	499名	283名（16市町村）
平成23年度	522名	388名	171名（11市町村）
平成24年度	728名	605名	272名（17市町村）
平成25年度	511名	326名	325名（16市町村）
累計	7,669名	5,344名	2,319名

群馬県地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山崎恒夫

平成 26 年 3 月 20 日、群馬県庁 29 階の 294 会議室にて、平成 25 年度群馬県地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会が開催されました。生憎の雨模様のなか、本年も県内 11 圏域、12 カ所の広域支援センターの方々にご参集いただきました。会議では本年度の活動状況を御報告いただき、ほぼ例年通りの活動を維持していただけたことを確認いたしました。また、県支援センターからは、本年度からの新しい試みである、上級介護予防サポーターを対象とした「学び直し」教材の作成と今後の活用方針について説明をさせていただきました。

現在国を中心に見直しが進められております“新しい”地域支援事業におきましては、介護予防事業や

地域ケア会議へのリハビリテーション関連職の参加・助言が今まで以上に期待されています。会議を通して、多忙な日常業務の傍ら支援センターの活動を遂行している各広域支援センターが、この新たな期待にどのように答えていくかは今後の大きな課題になると認識いたしました。

今回の連絡協議会に先立つ第 15 回群馬県地域リハビリテーション協議会にて、来年度以降も現在の 11 圏域、12 カ所の広域支援センターが引き続きこの事業に参加して下さることが了承されました。県民の皆様におかれましては、引き続き私どもの活動にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第 12 回群馬地域リハ研究会報告

群馬大学大学院保健学研究所 博士後期課程 2 年・医療法人 富士たちばなクリニック
下田 佳央莉

私が地域でのリハビリテーションに関わることになったのは今年度からである。しかし、群馬地域リハ研究会は、県の地域リハの取り組みについて知ることが出来る数少ない機会であり、講演では、今まで気が付かなかった視点を先生方に与えて頂くことが多かった。また、研究会に参加されている方々の付まいから、リハに携わる方だけではなく、地域で生活されている方が比較的多くいらっしゃることも、この研究会ならではの特色だと感じていた。そのため、以前から毎年楽しみに参加していたのだが、今回も、京都大学の池添冬芽先生と、一橋大学の猪飼周平先生に、興味深いお話を頂くことができた。

講演 I 「健康長寿の実現を目指した高齢者の運動療法の理論と実際」と題した池添先生の講演では、健康長寿の実現を目指した運動療法を実施するためには、高齢者の運動機能を多面的に評価・介入することが重要である、という内容のお話をしてくださった。筋機能についても、近年では加齢による筋量の低下である「サルコペニア」だけではなく、質の変化である筋肉脂肪の増加に対する運動療法の重要性と、より有効な実践方法はどれか、という先生の研究結果を、図や表を用いながら、分かりやすく示して頂いた。トレーニングにおける運動の速度によって、筋の質や歩行能力の改善に差が見られることは驚きであり、臨床場面でも、留意するべき点の一つである

と感じた。また、先生が強調されていた筋力・バランス・歩行能力・筋パワー・俊敏性などの多角的な評価を行い、個別に対象者に介入していくことの必要性について、再認識する機会となった。

講演 II 「地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション」と題した猪飼先生の講演では、地域包括ケアシステムは何のために必要なのか、ということ、その歴史的背景から理論的に解説してくださった。先生は「社会学者」とは“自分が置かれている状況・葛藤・進むべき方法などを説明してくれる、地図を作るような仕事をする人”であると解説してくださった。つまり、医療現場にいる私達が木を見る人であれば、猪飼先生は森を見る人、とのことである。「病院の世紀の理論」、「医学モデルから生活モデルへ」、「地域包括ケアとは」という内容を説明して頂く中で、「？」は何度も頭の中に浮かぶものの、普段リハ職種という立場で捉えていた地域包括ケアを、新鮮さをもって再認識することが出来た。また、先生がケアの質の向上や、QOL 支援、多職種連携の重要性を強調してくださったが、これらの重要性を一連の流れのように感じる事が出来た。人が住み慣れた地域で、尊厳のある生活を続けることを支援する、地域包括ケアシステムのあり方とは？地域リハに関わる専門職に望まれる姿勢とは？じっくり考えながら、これからの地域リハに関わっていきたいと思った。

上級介護予防サポーター学びなおし研修(試行版)報告

群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学講座 亀ヶ谷忠彦

上級介護予防サポーター学びなおし研修(試行版)が平成26年3月3日、群馬県庁会議室にて開催されました。学びなおし研修とは、地域で活動中の上級サポーターの方々が介護予防活動に必要な知識や技術を学びなおして、普段のサポーター活動をさらに充実させていただくための研修です。学びなおし研修の教材は平成24年度に行なわれた上級介護予防サポーターアンケートの結果をもとに開発されました。今回の研修(試行版)は、実際に上級サポーターの方々に研修を受けていただき、開発された教材に対するご意見をいただくことを目的に開催されました。

上級介護予防サポーター学びなおし研修(試行版)プログラム

【開催日時・場所】

平成26年3月3日 13時30分～16時30分 群馬県庁292会議室

【参加者】

上級介護予防サポーター 22名

【内容】

第1講 加齢にともなう身心特性の変化と介護予防

講師 亀ヶ谷忠彦(群馬大学大学院保健学研究科)

第2講 レクリエーションの進め方

講師 高野理子(ゆうハイムくやほら)

第3講 筋力トレーニングの理論と実際

講師 浅川康吉(群馬大学大学院保健学研究科)

研修に参加された上級サポーターの方々からは「すぐに実践できる活動内容を学ぶことができよかった」、「介護予防の重要性と介護予防サポーターの役割を再認識することができた」といった感想をいただきました。また今後の研修について「活動事例について小グループで話し合ってはどうか」、「実技を研修プログラムに取り入れた方がよいのでは」といったご意見をいただきました。これらのご意見をもとに、学びなおし研修の内容をより充実させるための教材開発が現在進められています。上級介護予防サポーター学びなおし研修は平成27年度から定期的開催される予定です。今回の研修に参加して貴重なご意見をお寄せいただいた上級サポーターの皆さまへ心よりお礼を申し上げます。

華麗に加齢のサイエンス 2014 開催

群馬県地域リハビリテーション支援センター 事務局長 浅川康吉

平成26年3月6日に前橋市の群馬会館で「華麗に加齢のサイエンス 2014」が開催されました。このイベントは群馬大学大学院保健学研究科と群馬県と群馬県地域リハビリテーション支援センターとの共催イベントで、群馬大学の平成25年度地域貢献事業としての支援を受けて行われました。

当日は午前中に群馬大学の山崎恒夫教授による特別講演Ⅰ「知っておきたい脳卒中の予防法」が行われ、午後には、前橋市と中之条町から保健事業紹介、続いて、医療法人あづま会の大澤誠理事長による特別講演Ⅱ「認知症の人の在宅医療」が行われました。また、これらの講演や報告と並んで群馬大学の先生方や大学院生、大学院修了生により会場内に

は各種のブースが設けられました。血管年齢、肺年齢、体組成、バランスの測定や、ものづくり(作業療法)の体験、女性向けの相談、災害対応の情報提供など多様な内容でした。来場した方々は、講演や報告を聞いたり、ブースを巡ったりとこのイベントを楽しんでいる様子でした。

「華麗に加齢のサイエンス」は今回で3回目となります。県支援センターは2回目(昨年度)からかわりはじめました。大学は地域リハを進めるうえで大きな社会資源です。県支援センターとしては、これから大学との関係づくりも積極的に進めていきたいと思えます。

『2013 介護予防サポーター育成・活用事例』 発刊

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局長 浅川康吉

2013 介護予防サポーター育成・活用事例

群馬県介護予防サポーター育成の理念

1. 「高齢者が自立して尊厳をもちながら安心して暮らせる地域社会」を創るには、元気高齢者が最大の人材
2. 元気高齢者に「真の自立支援」「介護予防」「安心して暮らせる地域づくり」を理解してもらい、そして元気高齢者が活動の中心になって、それを行政が支えるような仕組みを作る
3. 市町村や事業者が全てを提供する機関ではなく、高齢者が自ら介護予防や介護に取り組むという視点の転換が大切



平成26年3月
群馬県地域リハビリテーション支援センター
協力
群馬リハビリテーションネットワーク

各地で介護予防サポーターの活動が盛り上がるにつれ「他の地域の様子が知りたい」といった声が多く聞かれるようになりました。

こうした声に応えるべく県支援センターでは『介護予防サポーター育成・活用事例』と『介護予防サポーター交流大会』を交互に実施しています。

本年度は『介護予防サポーター育成・活用事例』発刊の年に当たるため、昨年度の『第3回介護予防サポーター交流大会』（平成25年2月3日 スマーク伊勢崎）の出展団体にご寄稿をお願いしたところ5市よりご寄稿をいただき『2013 介護予防サポーター育成・活用事例』を発刊する運びとなりました。

介護予防サポーターの活動は地域特性を反映してますます多様化しているようです。県支援センターとしてはサポーター育成、活用の支援だけでなく、地域間の情報交流の機会をつくることにも力を入れていきたいと思っております。

県支援センター事務局便り (H25. 12～H26. 3)

- 12.10 ニュースレター21号発送
- 1.23 県介護高齢課より事業予算受入
- 1.25 第12回群馬地域リハ研究会
- 3. 3 上級介護予防サポーター向け学びなおし研修(試行版)
- 3. 6 華麗に加齢のサイエンス2014
- 3.20 第15回群馬県地域リハビリテーション協議会・広域支援センター連絡協議会
- 3.31 ニュースレター22号発行

群馬リハネット事務局便り (H25. 12～H26. 3)

平成26年3月現在会員等の状況

- * 加入団体 33 団体
- * 賛助会員 団体会員 2 団体
(株孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。
- * 個人会員 1名
- 12.10 ニュースレター15号発送
- 12. 8ぐんま認知症アカデミー第8回秋の研究発表会(後援)
- 1.25 平成25年度第2回理事会
- 3. 6 華麗に加齢のサイエンス2014(後援)

編集デスク

山口晴保
浅川康吉
角田祐子
発行

群馬リハネット

群馬県地域リハビリテーション支援センター
連絡先

群馬リハネット事務局

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@gunma-u.ac.jp

ぐんま認知症アカデミー

第9回春の研修会

日時:平成26年6月15日(日)13:30～18:00

場所:群馬会館 ホール 参加費:500円

- 講演Ⅰ「BPSDの評価と認知症リハビリテーション」
講師:岡山大学神経内科 教授 阿部康二先生
- 講演Ⅱ「求められるのは適性ではなく技術と気づき! “ユマニチュード”と“不同意メッセージ”について学ぼう!」
講師:東京都健康長寿医療センター研究所 研究員 伊藤美緒先生

※詳細とお申込は、ホームページをご覧ください。

<http://happytown.orahoo.com/ninchi/>